



Kiss!!!

Free! FANBOOK

2014.12.28 #12 Presented by Oni@onichikusyou

MAKOTO×HARUKA

R18



Kiss!!!

Free! FANBOOK

2014.12.28 #12 Presented by Oni@onichikusyou

MAKOTO×HARUKA

R18

物心ついた時から
傍に居た幼なじみが
自分にとってどんな存在なのか
深く考えたことはなかった

ただ
大勢の中で誰かを
選べと言われたら
真琴を選ぶのが
自然なことだし

何か新しいことを
始める時は真琴に
一言言うのが
当然のことだった

はーい
じゃあペアに
なってくださいーい

キョー...

真琴が何か買い物へ
行くときは
俺に一声を掛けるのが
当たり前だったし
俺もそうした


ハルも
行かない
...?

どんな
些細なことでも
分かち合い、助け合う。

それが俺達の
習慣


当たり前のこと。





俺達の関係について他人に
兎や角言われたことも
数回あった


でもそれで俺達が
関係を変えることは
なかった。



俺達が変わりたいと
思わなければ

変わることは無い
…とその時は
鷹をくくっていた

危機感が無いから
また真琴が俺にとって
どんな存在なのか
考えることも無い



突然いっぺんに
やってきた感情が
抱えきれなくなった

あんな自分は
知らなかったし

心の中で
自分をフカンで見つめる
もう一人の自分が
笑って言った

やっと
気づいたか



だからあの夏の日…



と

高3の夏、
俺は思い知った。

俺が俺で要られたのは
真琴が居たからだ

でもいくら家が近い
幼なじみでも
大人になるにつれて
お互いの
環境は変わる

だから
失いたくないなら
つかんでい
るしかない

真琴がどんな存在か
自覚した今なら

み……水……

水……

ちゅ

カニッ

俺に迷いはない

はいっ
ハル水……!

大丈夫……?

……

……さんきゅ……

ハル……

一旦休憩
しよう……?

ジュッ
ジュッ

ジュッ

はまっ
はまっ



明日から
一週間も俺の
大会で会えない…

だから今日は
一日中するんだって
さっき言っただろ



無理は
よくな…

…いやだ。



ハル…



す…

……ッ



んっ



……ッ





さっきより
いっぱい…

お前ので
中
こすってくれ…

はあ…



一週間
お前のかたち
忘れないように…



はあ…



お、おい 何泣いて
るんだっ…?!

嫌だった
か…?

えっち
すぎる…

たろ…



ただ感極まった
だけ!

まさかっ
ちがう
ちがう!

…?
そうか…

ホッ



でもゴメン…
ちよっと想像して
不安になったんだ…

俺以外に
こんなハルの誰にも
絶対見せたくないって…

はあ…

当たり前だろ

うん!

真琴のこんな姿
誰にも見せたく
ない…

…でも俺も
つい考えて
しまうから
わかる…



ハルの
苦しそう…
もう挿れるね…



しめった布団の
上で



……

普通だったら
気持ち悪い
はずなのに…

二人でドロドロに
なりながら





あっ

やっ
…!

ぬち

んっ

アッ!

角度がっ…

はなっ

へんなとこ

当たるっ…!

カッ… カッ…

あんツ!

はっ
はっ
はっ

あっ…
あ

はなしっ

はっ
はっ

んあッ

カッ…

ぬちっ

きりっ…!

あっ
!!

ぬちっ

なまか
へんっ
カッ…!

カッ
カッ
カッ

あ
!!

大丈夫だよ
ハル

あっ!

あんっ!

はっ
はっ

あ
!!

やっ…

あ
!!



少きおた

寝ちゃった

少しは満足してくれたのかな...

キニ...

え...?

おん...

おん...



ドキッ

おん...

おん...で名前呼んでもらえるなんて...!

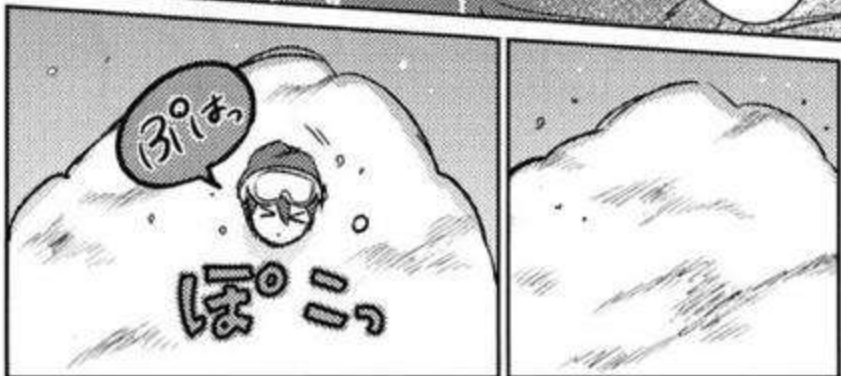
おん...で名前呼んでもらえるなんて...!



おひつこ









おとがきスポーツ

豆腹に

ちやんちやん

フニフニ

トビ...



Kiss!!

Free! FANBOOK

2014.12.28 #12 Presented by Oni@onichikusyou

MAKOTO×HARUKA